

科学研究費助成事業 研究成果公開促進費 国際情報発信強化（平成25年度採択分）
 「生態学分野におけるアジア地域からの国際情報発信の強化」
 （課題番号：251011）

学術団体名：一般社団法人日本生態学会
 学術刊行物の名称：Ecological Research
 事業期間：平成25年度～平成29年度

1 取組の概要

1) アジアのリーディングジャーナル：

Ecological Research (ER誌) は、生態学分野におけるアジアのトップジャーナルであるが、東アジアに加え東南アジアやインドなどからも質の高い論文の投稿を促進し、若手研究者を発掘・育成することでアジア地域全体におけるリーディングジャーナルとしての地位を確立する。

2) 電子化対応：

今後のER誌の電子化を見据え、Webサイトの充実を図る。出版社サイトに加え、新たにオリジナルサイト <http://www.esj.ne.jp/er/index.html> を構築し（右図）、学会の英語サイトとの有機的な連携を図る。

3) 関連学術誌との連携：

関連学会と組織的・効率的な広報活動を進めるため、複数の雑誌の共通のポータルページを作成し、掲載論文に対するアクセスの向上を図る。学会毎の各雑誌間を横断した仮想特集 (Virtual Issue) をWeb出版する。

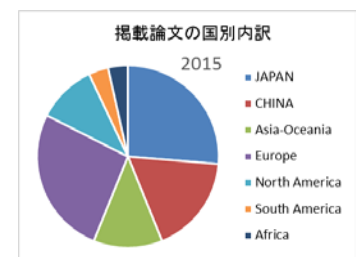
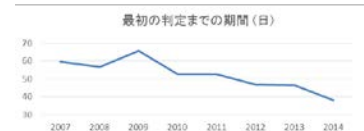
4) オープンアクセス化促進：

掲載論文数と被引用数の増加を促進するために、学会活動とも連携してOA論文割合の増加をはかる。



2 目標の達成状況

- ・Aims and ScopeとInstructions for Authorsを改訂した。審査規定を明確化し、出版倫理の記述を強化した。
- ・論文図表作成ガイド、How to improve your figuresを編集・公開した (<http://www.esj.ne.jp/er/ImproveFigures/ImproveFigures.html>)。
- ・若手編集者育成のために、次世代育成型Editor制度を創設した。
- ・編集体制の効率化と審査体制の整備を進めた。結果として、2012年から2014年にかけて、審査日数は大幅に短縮された（投稿から最初の判定までの日数，47日→38日，投稿から採択までの日数，216→180日）。
- ・外国人編集委員の割合は59%、2014年の論文1件あたりのレフェリー数：2.3人、レフェリーの実人数に対する海外レフェリー割合：57%。
- ・生態学会広島大会では海外から5名の研究者（ギリシャ，オランダ，アメリカ，イギリス）、鹿児島大会では海外から4名の研究者（イギリス，オランダ，中国）を招へいし、7件の「ERシンポジウム」を開催した。その成果を特集や総説としてER誌に掲載した。
- ・アジア研究者向けに論文執筆のための「ERセミナー」を開催した。
- ・植物学会の英文誌Journal of Plant Researchとの仮想特集“Long-term and multidisciplinary research of the forest carbon cycle at the Takayama site, Japan”をWeb公開した。
- ・2014年には19本のOA出版を行い、全体の16.8%となり、Springer社からTop Open Choice Journalの認定を受けた。



3 今後の目標

- ・経費節減のため電子ジャーナル化を推進し、生態学の総合OA誌化を見据えた編集体制を整備する。
- ・生態学関係英文誌との連携を強め、日本の生態学研究の国際情報発信力を高める。